

インタビュー2

海の文化とものづくりプロジェクト

どのような取り組みをされるのですか

学生たちが主体となって、「内海文化財マップづくり」「古風景写真の現況調査」、「知多のものづくり道具調査」を行っています。

内海文化財マップづくりは文化財を発掘し、そのものの特徴を明らかにします。

古風景写真の現況調査は、大正から昭和時代にかけての知多の海にかかわる絵葉書の現況を撮影するものです。

知多のものづくり道具調査は、醸造業などの産業にかかわる道具を対象とします。

古いモノであっても、そこに価値を見いださなければただのモノです。知多エリアの海の文化、ものづくり調査を通して、埋もれた歴史遺産を発掘し、地域を見直すきっかけづくりを行います。

学生たちに学んでほしいこと

歴史遺産や文化を通して、学生たちが自分の目で見、自分の頭で考える本物志向を身につけてもらいたい。

歴史をイメージとして捉えて、その背景にある意味づけをしっかりと組み立てて、その材料を現在の地域づくりに活かしていく思考を学んでもらいたい。

学生たちが生活していく中で、自分たちが住んでいる地域を考える時の材料にもつながっていきます。

下宿している学生たちにとっては、今回の調査はまさに生活の場であるが、自宅から通っている学生たちは、学校以外に生活の場としての地域があります。その生活している地域を考える際に、今回のプロジェクトで学んだことを活かしてほしい。

地域への貢献について

歴史から学んだものを現在にどう活用していくかが、本学経済学部で行っていく活動と思っています。

知多半島には、まだまだ多くの文化・歴史遺産が残っています。その隠れた文化・歴史遺産を発掘して、学生たちの視点を入れながら、新しい知多半島の観光像づくりに大学が貢献していけると考えています。

文化財というものには、行政が主導する文化財行政によって整えられていくものと、地域の人たちが自分たちの手で探して、自分たちで残していく、地域から立ち上げる文化財があります。

どちらも大切なものです。その両面にサポートできるのが大学であり、地域の方々と一緒になって、これまで考えてもみなかった“文化財”の掘り起こしを実現していきたいと思っています。



経済学部 曲田 浩和 助教授

プロフィール

1965年生まれ。江戸時代を専門分野とし、特に生産・流通・消費の関連から当時の経済・社会を考える。地域のなかでの商人の動き、地域をつなぐ流通のあり方を通して、江戸時代の生活を探る。趣味は、旅行、博物館巡り。

学生インタビュー

【既に、数々の調査を経験してきて、今回のプロジェクトにも参加している早川君に調査を通してどんなことを学び、楽しかったかを聞きました】

これまで、社会に出て人と話すことがあまりありませんでしたが、多くの人と関わっていきながら調査をしていく中で、積極的に行動できるようになりました。また、多く人と接していくなかで、いろいろなことを学びました。

調査を通しての喜びは、多くの人と接していけることとともに、貴重な文化財を直接みたり、手にとったりできることです。

貴重な文化財に触れる度に、すごいなあと手にできる喜びを感じます。



今回のプロジェクトにも参加し、既に数々の調査を経験している経済学部3年の早川君。

インタビューア：現代GPコーディネーター 名倉 弘二